

研究型大学の国際化

— 学術追求と国際化推進の接点と狭間 (東京大学を事例として)

第13回 高等教育学会

I－6部会『国際化』

東京大学評価支援室 船守美穂

2010年5月29日

Today's Talk

- 東京大学の2010-2020年の「国際化推進長期構想」の策定にあたった立場から、「研究型(総合)大学の国際化」のあり方や難しさについて、考察したい。

研究型大学と教育型大学との国際化の違い(1)

□ 教育型大学

- 一般には、「教育の国際化」が中心となる。
 - 日本人学生の海外派遣、語学研修
 - 学生交流プログラム
 - 留学生の受入れ
 - 学生の英語力の強化
 - 国際的な視野、国際教養を醸成する教育プログラム
 - 国境を越えて提供される高等教育 等
- 「学生への教育上の配慮」、あるいは、「学生獲得」の視点に基づく場合が多い。
- 国内先進事例： 関西外大、APU、国際教養大学 他

研究型大学と教育型大学との国際化の違い(2)

□ 研究型大学

- 一般には、「研究の国際化」を通じた国際競争力の強化といった視点も加わる。
 - 優れた外国人研究者、教員の獲得
 - 研究者の海外派遣
 - 研究の国際展開
 - 国内外の国際拠点の形成
 - 研究の国際発信力の強化 等
- 「教育の国際化」のあり方も変わる(主に大学院対象)。
 - アカデミック・ライティングの充実
 - 海外大学教員との博士論文の共同指導、共同審査
 - 海外における研究活動、国際会議等における発表の充実
 - 優秀な留学生獲得、英語による学位取得コース
 - (教員による)海外における教育活動の実施 等

「大学の国際化」の一般的認識(1)...国の政策文書から

表: 「大学の国際化」に関連して頻繁に使用される用語(国の政策文書等から)

<p>■ 国際競争力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界トップクラス研究拠点 ・ 世界大学ランキング ・ 国際的な科学賞受賞者 ・ 各国の高等教育に対する戦略的取組 ・ 論文数、論文被引用回数 ・ 外国人教員、留学生の割合 ・ 英語教育 ・ 英語による学位取得コース ・ グローバル人材の育成 ・ 研究環境の国際化 等 	<p>■ 国際連携・交流、国際展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な大学間ネットワーク ・ 留学生交流、学生交流・派遣 ・ 国境を越えて提供される高等教育 ・ 海外分校、eラーニング ・ 教育連携、ダブルディグリー ・ 国際活動の戦略的推進 ・ 国際協力プロジェクト 等 	<p>■ 人の国際的流動性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員、学生の国際的流動性の向上 ・ 外国人教員、留学生 ・ 研究者の派遣、海外留学 ・ 海外大学学位取得者 等
	<p>■ 質保証、国際的通用性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育の国際的な質保証 ・ 国際的に通用する高等教育 ・ 国際的に魅力ある大学教育 等 	<p>■ 国際発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な情報発信力 ・ 国際的な情報ネットワーク 等

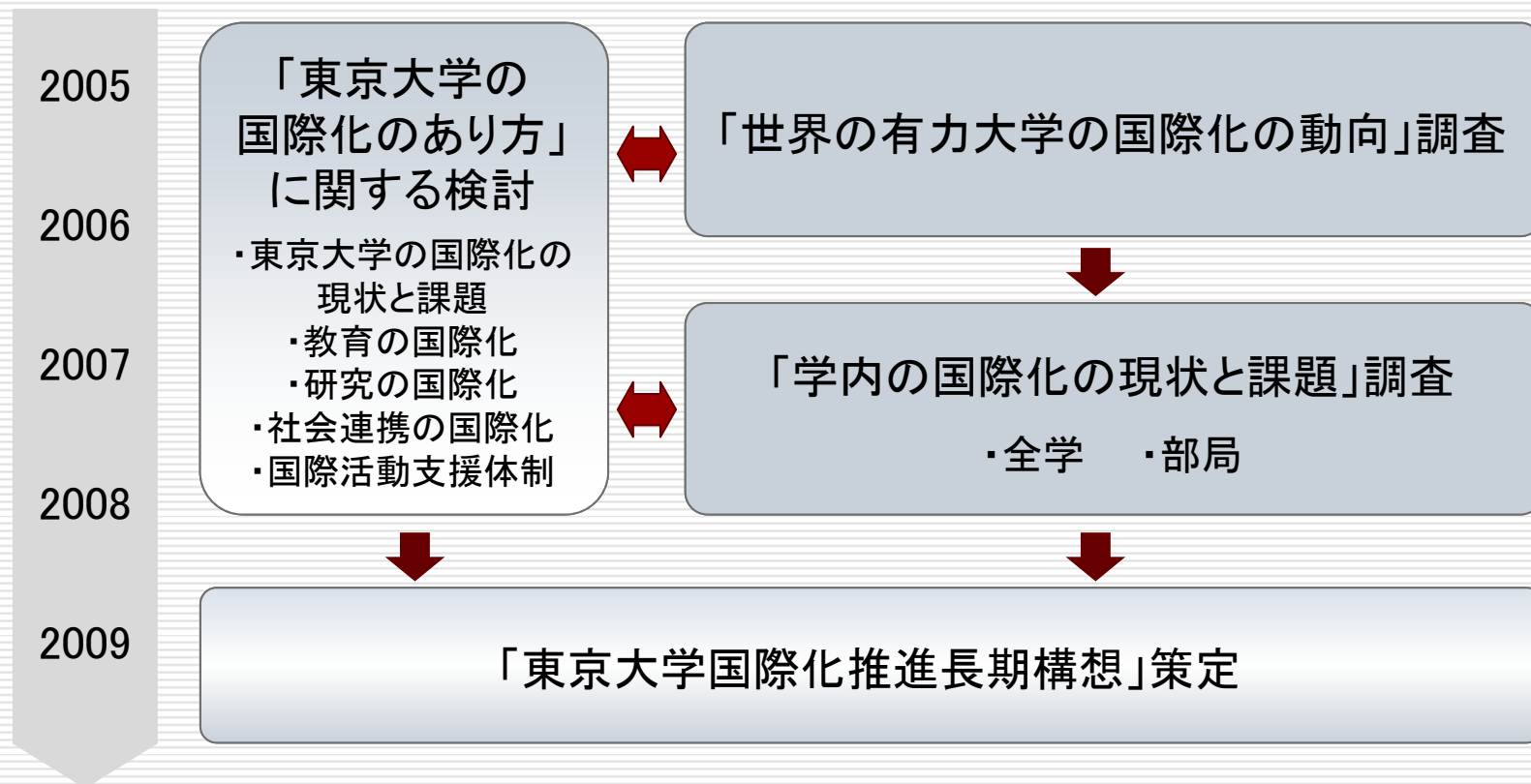
[注]用語の抽出および分類は任意である。分類において重複もあり、また、用語のレベルも異なる。

「大学の国際化」の一般的認識(2)...国の政策文書から

- 国の政策文書は、国際競争力の強化を強く意識して記述している。
- したがって、この「大学の国際化」の各項目は、研究型大学に適用可能な項目の方が多い。
 - 本来は、教育型大学が国際化した方が、国の国際化に寄与すると思われるが...(個人的見解)。
- つまり、東京大学はこれら項目を追求することが想定されている。
- また、国の政策文書により形成された「大学の国際化」のイメージが、東京大学の教職員も含め、一般のもつ「大学の国際化」の像である。

長期構想の策定プロセス(1)...5カ年の事業期間

- 東京大学の国際化推進長期構想の策定は、文部科学省「大学国際戦略本部強化事業」への提案に基づく。



長期構想の策定プロセス(2)...最終年度

- 最終年度は、執行部および国際企画部で行われていた議論を、全学の国際委員会に移し、意見招集および合同での策定作業を行った。

本部(理事、長期構想TF)

○ラフ・スケッチの提示
・問題点の抽出
・重点の置き方の検討 等

○本編構想策定作業

・部局編との整合性調整

・学内承認・確定作業

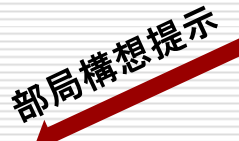
「東京大学国際化推進長期構想」(本編・部局編) 確定

部局(国際委員会、部局長)

・部局内における検討

○部局編構想策定作業

・部局内の承認・確定作業



東京大学国際化推進長期構想(全体像)

○ 本編

I. 国際連携と国際活動の組織的な推進

- a. 東京大学の海外展開、国際連携の促進
- b. 東京大学の国際拠点の充実・発展と
学術面の国際発信の強化
- c. 国際的な教育研究活動の推進

II. 高い専門性と国際的な視野・教養を備えた人材を世界に送り出す

- d. 学部における教育の国際化
- e. 大学院における教育の国際化
- f. 学生の英語を含む外国語力、
国際的チームワーク能力の強化
- g. 留学生の受入れ拡大
- h. 日本語教育の推進

III. 国際的な教育研究活動を支える学内体制・制度の整備

- i. 国際連携の組織的な推進のための本部機能の強化
- j. 留学生・外国人研究者の学内受入れ体制の整備
- k. 学内事務体制の国際的な対応に関わる基盤強化
- l. 国内外の国際的な教育研究活動のための体制・制度整備

○ 部局編 (15研究科、11附置研究所、2センター)

東京大学国際化推進長期構想(ポイント)

□ 本編と部局編を作成

- 部局(研究科・附置研究所)の教育研究活動の総体として、全学の活動があるという考え方

□ 「教育の国際化」と「国際活動支援体制整備」に重点

- これまで取り組みが遅れていた、教育面の国際化に重点。
- 体制整備は、本部主導でないとうまく動かない。

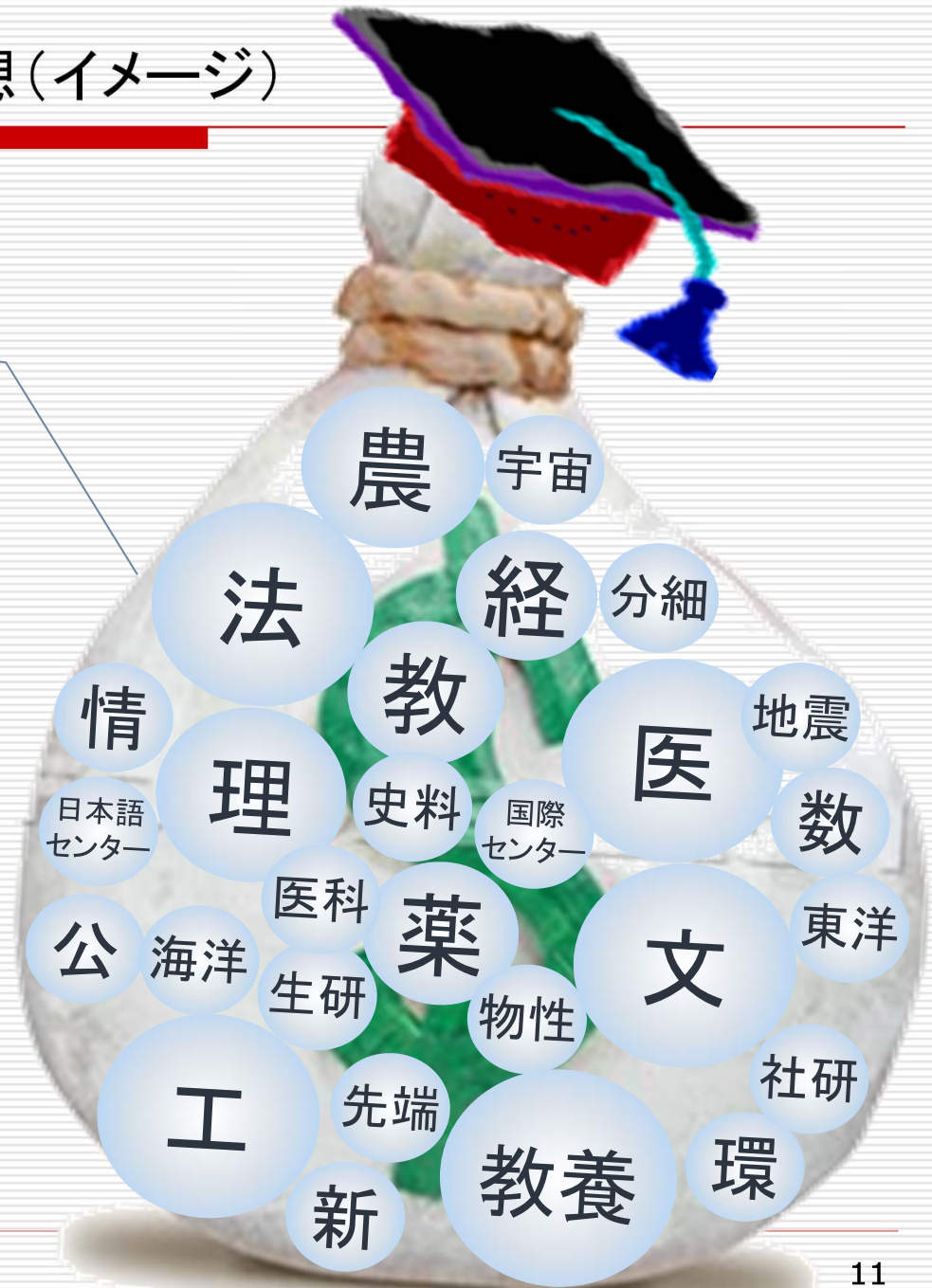
□ 研究面は、「国際連携・国際活動の推進」に吸収

長期構想策定の難しさ

- 重点を作ることの難しさ
 - 教育に重点とした場合、研究は軽視することになる？
- 数値目標を現場レベルに持っていくことの難しさ
 - 全学の目標＞部局の目標＞専攻の目標と細分化して考えていくと、実現が難しくなる？
- 多様な部局を擁する総合大学としての難しさ
- 実施主体は部局であることの難しさ
- (予算・実施体制上の難しさ)

東京大学国際化推進長期構想(イメージ)

多様な26部局の集合体としての東京大学



各部局の国際化長期構想(例示)

法学政治学研究科

- ビジネスロー・比較法制研究センターの国際拠点化
- 法科大学院のトランスナショナル・ロー・プログラム
- BESETOシンポ、コロンビア大

医学研究科

- 学部生の海外派遣(3ヶ月)の継続、若手研究者の派遣
- 学部・大学院の英語講義環境の整備
- 附属病院の国際拠点化構想

工学研究科

- バイリンガル・キャンパス構想
- 大学院講義の5-7割英語化
- 学部講義の2-5割を英語化
- 世界的に著名なトップランナー人材を各専攻1名目安

人文社会系研究科

- 多言語主義のグローバル化
- PESETO人文会議
- 多言語教育、多言語によるアカデミック・ライティング
- 留学生の専門的日本語教育

数理科学研究科

- ほぼ全ての教員の中長期在外経験の維持
- MATHEI、PRIMAなどの研究ネットワークの日本拠点へ
- テレビ会議による海外連携強化

情報学環

- 海外大学との博士論文共同指導體制
- 情報学環メディア・コンテンツ国際研究拠点設置
- 教員向アカデミック・ライティング

大気海洋研究所

- 政府間パネル等の企画・推進・支援(ICSU,IGBP,GOOS等)
- アジア諸国との学術交流・人材育成
- 学際的若手共同研究推進

社会科学研究所

- 英文雑誌Social Science Journalの発行継続
- 外国人客員教授・研究員の継続受入(年間30名前後)
- 社会調査・データアーカイブ

史料編纂所

- 外国の研究者の史料利用
- 共同利用・共同研究拠点としての国際化
- 海外における屏風修補助言
- 海外編纂機関との共同事業

「大学の国際化」の一般的認識(1)...国の政策文書から

表: 「大学の国際化」に関連して頻繁に使用される用語(国の政策文書等から)

<p>■国際競争力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界トップクラス研究拠点 ・世界大学ランキング ・国際的な科学賞受賞者 ・各国の高等教育に対する戦略的取組 ・論文数、論文被引用回数 ・外国人教員、留学生の割合 ・英語教育 ・英語による学位取得コース ・グローバル人材の育成 ・研究環境の国際化 等 	<p>■国際連携・交流、国際展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な大学間ネットワーク ・留学生交流、学生交流・派遣 ・国境を越えて提供される高等教育 ・海外分校、eラーニング ・教育連携、ダブルディグリー ・国際活動の戦略的推進 ・国際協力プロジェクト 等 	<p>■人の国際的流動性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員、学生の国際的流動性の向上 ・外国人教員、留学生 ・研究者の派遣、海外留学 ・海外大学学位取得者 等
	<p>■質保証、国際的通用性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の国際的な質保証 ・国際的に通用する高等教育 ・国際的に魅力ある大学教育 等 	<p>■国際発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な情報発信力 ・国際的な情報ネットワーク 等

[注]用語の抽出および分類は任意である。分類において重複もあり、また、用語のレベルも異なる。

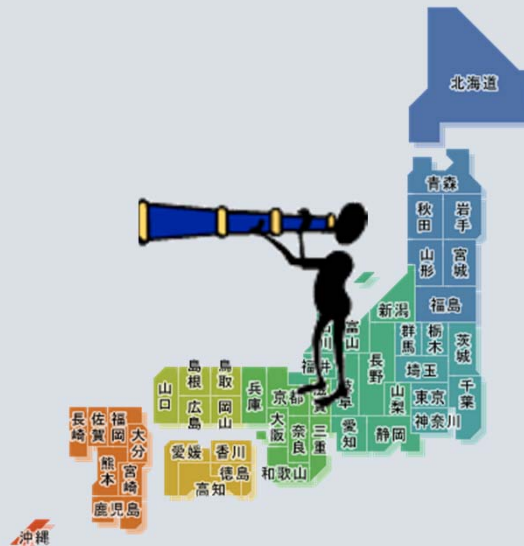
タイプ別国際化の考え方とアプローチ(1)...研究対象別

日本研究



- ・日本文学
- ・史学、法学
- ・政治学、教育学

外国研究、地域研究



- ・外国文学
- ・人類学、社会学
- ・教養

グローバル研究



- ・地球科学、農学
- ・グローバルな課題解決
- ・哲学

タイプ別国際化の考え方とアプローチ(2)...研究の実践別

応用研究(国内)



国際比較研究
世界共通の哲学

- ・法学、経済学
- ・教育学
- ・工学(一部)

基礎研究



国際競争
優秀な人材の争奪戦
(奨学金確保、処遇提示)
英語による研究活動
国際拠点形成
世界的な研究実施

- ・理学
- ・医学、薬学
- ・経済学

応用研究 (国外、グローバル)



国際共同研究
国際ネットワーク、海外拠点
海外における実践

- ・工学、農学
- ・医学、薬学
- ・経済学、公共政策等

タイプ別国際化の考え方とアプローチ(3)...人材育成タイプ別

研究者養成(基礎科学)

- ・英語教育
- ・国際水準の専門教育
- ・論文共同指導、共同審査
- ・国際会議発表 等

研究者養成(人文社会)

- ・外国語教育
- ・在外研究、海外留学
- ・国際比較研究
- ・新たな世界観の提示

教養教育

- ・多言語教育
- ・異文化理解教育
- ・国際的視野、教養の醸成
- ・国際性の涵養

実践人材養成(国内)

- ・バイリンガル教育(日英)
- ・外国諸制度の学習、
国内外の調整実践
- ・国内のグローバル化への対応

実践人材養成(グローバル)

- ・英語教育、コミュニケーション力
- ・問題解決力、企画力、チームカ
リーダーシップ
- ・現地実践教育、海外派遣
- ・国際的視野

まとめ(1)...学術追求の国際化推進の接点と狭間

- 教育研究を担う部局の提示する国際化の取り組みは、各部局の学術追求の延長線上にある国際化である。
- それは、各部局のこれまでの活動に根付いた取り組みであり、部局の教育研究の特性に応じて、多様な様相を呈する。
- 大学レベルあるいは国レベルで提示する国際化の方針は抽象的であり、かつ、特定の部局が全てをカバーすることはない。

まとめ(2) ...学術追求の国際化推進の接点と狭間

- 各部署に無理に単一の国際化の方針やフレームワークを当てはめようとする、無理が生じる。あるいは、現場の教育研究活動から遊離した構想となってしまう。
- 各部署の多様で、魅力的な取り組みの総体として、全学の国際化推進をデザインしなければならないのである。



アーカイブズ

□ 東京大学国際本部のHPにてダウンロード可能

[\(<http://dir.u-tokyo.ac.jp/Archives>\)](http://dir.u-tokyo.ac.jp/Archives)

- 「世界の有力大学の国際化の動向」(2007年11月)
- 「東京大学国際化白書(本編)」(2009年3月)
- 「東京大学国際化白書(部局編)」(2010年1月)
- 「東京大学国際化推進長期構想」(2010年3月)

□ 連絡先

東京大学評価支援室

インスティテューショナル・リサーチ担当 特任准教授

船守美穂 (E-mail: funamori.miho@mail.u-tokyo.ac.jp)